

Future

micro:bitプロジェクト～困り事の収集と整理～

コロナ禍でSOLANでも登校自粛やオンラインで授業を受けざるを得ない子が出る中、micro:bitプロジェクトは着々と進んでいます。

7/22（金）には、子どもたちとともに、「誰にインタビューをすることが学校の困り事を調査する上で大切か」について話し合い、「学年や立場のバランス」と結論づいた結果、下記の先生や職員の皆さんにインタビューをすることが決まり、計画をしてインタビューを行いました。

- ①長尾理事長 ②1年生担任（日本人：中山先生、外国人：マイク先生）
- ③3年生担任：樋口先生 ④保健室：田中先生養護教諭 ⑤図書：吉賀先生
- ⑥専科：谷口先生（音楽科） ⑦バスティーチャー：統括している木下先生
- ⑧アフタースクール：統括している中村先生

17号の学年通信でお伝えした通り、インタビュー実施前には、国語の授業等でインタビューの仕方の授業を行い、アポイントメントの取り方、事前準備、本番で質問するポイント、記録の仕方などを確認し、実際にインタビューの練習も行いました。

インタビュー本番では、3人1組になってそれぞれ質問役、記録役（メモ）、記録役（iPadでの収録）を担当しインタビューを行い、終了後は各グループが考えた適していると思う思考ツールでインタビュー内容をまとめました。

その後の授業では、インタビュー調査をして把握した困り事について、その問題点を分析した上で、どんな方法で解決することができるか、各グループがアイデアを出し合いました。アイデアを出す際には、あえて活用するmicro:bitのセンサーについては意識せず、自由な発想で出すことを強調しながら、アイデア出しを行いました。また困り事と関連づけながら、まずは発想を膨らませ解決につながりそうなアイデアをたくさん出すことを目的とした活動であることを意識させるため、イメージマップを活用しました。

8/3（水）の研究会の授業では、子どもたちと話し合った結果、思考ツールのPMIシートを使い、たくさん出したアイデアを絞り込みました。オンラインにより登校することができず、メンバーが欠けているグループもいた中、時には他のグループと協力しあってアイデアを絞り込んでいました。日本中からオンラインで参加している教育関係者に向けて配信されるため、カメラを向けられながらの授業でしたが、子どもたちは堂々としていて、むしろ授業開始間には「先生緊張してない？いつもと違うじゃーん！いつもより優しい（笑）」とこちらを茶化してくるほどでした。昨年度からSOLANに来校されたり、1月にもオンラインの研修会をしたりしているので、授業を見られることを楽しんでいる子どもたちが頼もしく感じました。

プロジェクトの授業と並行して、情報の授業ではKeynoteのリンク機能を習得するため、リンク機能を使ったクイズを作成しました。また夏季休暇の思い出をまとめる際にも、今回はKeynoteでの発表スタイルではなく、このリンク機能を使った紹介を家庭学習の課題にしています。このように様々な教科で習得してきた内容を活かして、休み明けの第2クォーター後半からは、実際にmicro:bitのセンサーを活用したアプリケーションのプロトタイプデザインに入っていきます。